

百人一首を中心に
文字とかたち

TOKO SHINODA EXHIBITION 2018

篠田桃紅作品展

2018年12月12日[水] - 17日[月]

福岡三越 9階「三越ギャラリー」 <最終日は午後5時閉館>

入場無料

福岡三越 9階 = 岩田屋三越美術画廊 <最終日は午後6時閉場>

世界のアートシーンに影響を与え続ける孤高の美術家、篠田桃紅氏 105歳。
墨の濃淡や陰翳のあやに揺らぐその作品は、世界のコレクターを魅了してやみません。
本展では一千年の時を経て今も愛唱され続けている古典「百人一首」を現代に蘇らせます。
篠田桃紅によって色鮮やかな料紙に書かれた秘蔵の百人一首、余分なものをすべて削ぎ落とし、
一瞬の心のかたちを優美な線と面で表現した抽象作品を展覧いたします。

ビデオコーナーや篠田氏の愛用する筆や硯などを特別展示し、篠田桃紅が歩んだ一世紀という時代的背景に迫ります。

【同時開催】墨 SUMI - かたち・いろ 片山雅史・樋口健彦



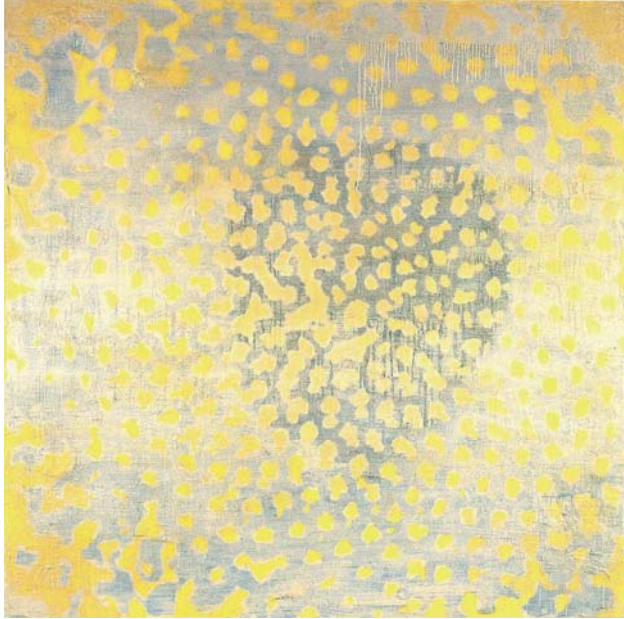
MITSUKOSHI

福岡

〒810-8544 福岡市中央区天神2-1-1
TEL/092-724-3111(大代表)
www.iwataya-mitsukoshi.co.jp

特別協賛： にしてつグループ 企画協力：ギャラリーサンカイビ

福岡三越は、連日休まず営業いたします。営業時間 / 午前10時～午後8時

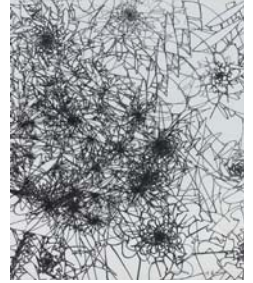


「皮膜 2001」 顔料・アクリル・画布 2001年 194.5×194.5 cm

1955年東京に生まれ京都で育つ。1984年京都市立芸術大学大学院を修了後、A.C.C.の招聘により渡米、ニューヨークに滞在。1995年文化庁派遣芸術家在外研修員として、ロンドン大学ゴールドスミスカレッジに在籍。コレクションは福岡市美術館、原美術館、大阪府立現代美術センター、成都現代美術館、インディアナポリス美術館、ホノルル美術館、パレスホテル東京、ドイツ銀行フランクフルト支店、フェアモント・ジャカルタなど。



「七遊魚図」 紙に墨 2010年 73×57.5 cm



「草雪花」 紙に墨 2010年 53×43.5 cm



MASAHITO KATAYAMA 片山雅史

篠田桃紅氏へのオマージュとして、墨による新たなる表現を追求し、独自の幽玄なる世界を創り上げてきた、今注目目の二人のアーティストを紹介いたします。

片山雅史氏は、向日葵の花芯など幾何学的秩序で構成された「螺旋」や半透明の重層的な「皮膜」をテーマに、遙か銀河の巨視的世界から貝殻などの極小世界まで、自然が内包する生命の律動を、墨や鉱物顔料を何層にも重ね描いています。そこには視覚以外の知覚を呼び覚まし「生死一如」のごとく、ものの本質を私たちに問いかけます。

一方、樋口健彦氏は、高温で焼締められた陶が冷めきる前に墨を浸透させ、ガスバーナーで丹念に焦がし仕上げていきます。その「漆黒」は限りなく光を吸収し「陰」にちかづき、そこに佇む「気配」となります。さまざまな都市空間で、重力にも似た「おもし」のように、すべてが見え過ぎる現代社会にあつて、一旦、私たちをやさしい闇へと引き入れる、そんなニュアンスを放っています。

多様な表情を見せる墨の「かたち・いろ」を、独自の視点で切り取り表現する、福岡ゆかりの二人のアーティストの作品を、是非ともご高覧下さい。

樋口健彦 TAKEHIKO HIGUCHI



「Real Number 1998」 陶、墨 1996年 49×161×81 cm

「奥行きのある円」 陶、金粉、金箔 2013年 42×42×40 cm



1966年福岡県生まれ。1990年大阪芸術大学芸術学部工芸科陶芸コース卒業。1992年多摩美術大学絵画科陶芸専攻研究生修了。1993年「Artists in Residence Program」TAMAらいふ21協会(東京)。1999年Asian Artists Fellowshipで渡米しVermont Studio Center(アメリカ)に在籍。コレクションはアルゼンチン近代美術館、平塚市美術館、東京都町田市立博物館、福岡済生会病院、JALシティホテル宮崎など。



「Untitled」 陶、墨、モルタル 2006年 11×78×38 cm